



第16回 6月17日の授業内容

- [6月16日授業スライドの訂正について]
 - § 5.3.3 大数の法則と中心極限定理:再論

□ § 6. 母数の推定

- § 6.1 推定量:種類と性質
- § 6.2 点推定
 - § 6.2.1 母平均の推定
 - § 6.2.2 母分散の推定
 - § 6.2.3 偏差2乗和の分布

6/17/09

1



§ 6. 母数の推定

§ 6.1 推定量estimator:種類と性質

- 主観的推論と統計的推論
 - 統計的推論 = 標本データに基づく推論
- 統計量に基づく推定 = 推定量
 - 標本データに基づく推論 標本データの関数
 - ↓
 - 統計量を推定量として採用

6/17/09

7



§ 6.1 推定量:種類と性質(2)

□ 推定法:

- 点推定 point estimation
母数の値そのものを当てる
- 区間推定 interval estimation
母数の値の範囲を当てる 信念の程度

□ 推定量の「良さ」の基準

- 不偏性 unbiasedness
- 一致性 consistency
- 効率性 efficiency

推定量の分布の平均が母数に一致すること

n のとき、推定量の分布が母数の一点分布になる(母数に確率収束すること)

不偏性を満たす推定量のうち、推定量の分布の分散が小さいこと

6/17/09

8



§ 6.2 点推定

§ 6.2.1 母平均の推定

同一母集団からのランダム標本、 X_1, \dots, X_n から母集団の平均 μ を点推定する。

□ 推定量(1):算術平均

$$\hat{\mu} = \bar{X}_n$$

$$E(\hat{\mu}) = \mu, \quad \text{Var}(\hat{\mu}) = \sigma^2/n$$

- 不偏性、一致性を満たす。
- 後述のように効率性も満たす。

6/17/09

9



§ 6.2.1 母平均の推定(2)

□ 推定量(2):加重平均

$$\hat{\mu} = \sum_{i=1}^n w_i X_i, \quad \text{ただし} \sum_{i=1}^n w_i = 1$$

$$E(\hat{\mu}) = \sum_{i=1}^n w_i E(X_i) = \mu \sum_{i=1}^n w_i = \mu$$

$$\text{Var}(\hat{\mu}) = E((\hat{\mu} - \mu)^2) = \sum_{i=1}^n w_i^2 E((X_i - \mu)^2) = \sigma^2 \sum_{i=1}^n w_i^2$$

6/17/09

10



§ 6.2.1 母平均の推定(3)

□ 推定量(2):加重平均(続)

- 推定量の分散が最小になるウエイト w_i

$$w_1 = w_2 = \dots = w_n = 1/n \text{ のとき分散が最小}$$

- 算術平均は効率性を満たす推定量
最良線形不偏推定量 Best Linear Unbiased Estimator

6/17/09

11



§ 6.2.2 母分散の推定

- 母平均 μ が既知の場合

- 推定量

$$\tilde{\sigma}^2 = \sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \mu)^2}{n}$$

- 不偏性、一致性は満たす

$$E(\tilde{\sigma}^2) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n E(X_i - \mu)^2 = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \sigma^2 = \sigma^2$$

$$\text{Var}(\tilde{\sigma}^2) = \frac{1}{n} (\mu_4 - \sigma^4)$$

6/17/09

12



§ 6.2.2 母分散の推定(2)

- 母平均 μ が未知の場合

- 推定量(1)

$$\tilde{\sigma}^2 = \sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \bar{X}_n)^2}{n}$$

母平均の推定量として標本平均(標本の算術平均)を採用。

6/17/09

13



§ 6.2.2 母分散の推定(3)

- 推定量(1)(続)

□ 不偏性は満たさないが、一致性は満たす。

$$E(\tilde{\sigma}^2) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n E(X_i - \bar{X}_n)^2 = \frac{n-1}{n} \sigma^2$$

$$\text{Var}(\tilde{\sigma}^2) = \frac{\mu_4 - \sigma^4}{n} - \frac{2(\mu_4 - 2\sigma^4)}{n^2} + \frac{\mu_4 - 3\sigma^4}{n^3}$$

6/17/09

14



§ 6.2.2 母分散の推定(4)

- 母平均 μ が未知の場合(続)

- 推定量(2)

$$\hat{\sigma}^2 = \sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \bar{X}_n)^2}{n-1}$$

□ 不偏性、一致性ともに満たす。

$$E(\hat{\sigma}^2) = \frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n E(X_i - \bar{X}_n)^2 = \frac{1}{n-1} \left(\sum_{i=1}^n \sigma^2 - \sigma^2 \right) = \sigma^2$$

6/17/09

15



§ 6.2.3 偏差2乗和の分布

- 母分散の推定量の分布は?

- 母平均 μ が既知のときの推定量 $\tilde{\sigma}^2 = \sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \mu)^2}{n}$ の分布を考えることにしよう。

$$X_i \sim N(\mu, \sigma^2) \text{ であるとき、} \frac{X_i - \mu}{\sigma} \sim N(0,1).$$

$$\text{ゆえに } \frac{(X_i - \mu)^2}{\sigma^2} \sim \chi^2(1)$$

$$\chi^2 \text{ 分布の再生性より、} \sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \mu)^2}{\sigma^2} \sim \chi^2(n)$$

$$\text{よって、} \frac{n\tilde{\sigma}^2}{\sigma^2} = \frac{1}{\sigma^2} \sum_{i=1}^n (X_i - \mu)^2 \sim \chi^2(n)$$

6/17/09

16



§ 6.2.3 偏差2乗和の分布(2)

6/24訂正

- 母平均 μ が未知のときの推定量 $\hat{\sigma}^2 = \sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \bar{X})^2}{n-1}$ の分布を考えることにしよう。

実は、 $X_i \sim N(\mu, \sigma^2)$ であるとき、 $Y_i \sim N(0, \sigma^2)$ を用いて

$$\sum_{i=1}^n \frac{(X_i - \bar{X})^2}{\sigma^2} = \sum_{i=1}^{n-1} \frac{Y_i^2}{\sigma^2} \text{ と表せることが知られている。}$$

$$\text{よって、} \frac{(n-1)\hat{\sigma}^2}{\sigma^2} = \frac{1}{\sigma^2} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2 = \frac{1}{\sigma^2} \sum_{i=1}^{n-1} Y_i^2 \sim \chi^2(n-1)$$

自由度が1小さい、すなわちn-1になっていることに注意

6/17/09

17